

井上泰宏(いのうえ・やすひろ)

1986年生まれ 37歳

福岡県北九州市出身。大学卒業後ボートレース関係の会社に就職。2015年から日刊紙記者として若松ボートを担当後、20年から芦屋ボートに常駐。趣味は釣り。車のシート下に餌が転がり込んだことに気づかず、しばらく異臭を放ち続けたのがトラウマ。

大物の予感！ イケメン記者の

no.18

最高のライバル関係

協力と競争の共存

「〇〇選手のアドバイスのおかげで良くなった」とか「〇〇選手に聞いてみます」といった選手のコメントを目にしたことや聞いたことのある人は少なくないはず。水面では「我こそが」とひとつでも上の着順を目指して走るのがボートレーサーですが、ピットでは互いに情報を共有しながら調整作業を進めることも少なくありません。

独自のスタイルで調整をして情報共有をすることが少ない選手だとしても、レースや試運転後のボートを引き上げるエンジン吊りと呼ばれる作業などは協力して行います。同世代の選手が集まるルーキーズシリーズではその時の空気感も含めてSGやGI、さらには一般戦とも違った雰囲気があります。ただし、仲がいいからこそ強烈なライバル心も生まれます。11月末に行われた芦屋のルーキーズ



ーズは見応えのあるレースが数多く行われました。優勝候補筆頭だった末永和也選手は平凡機を引いて優出ならず。24年に4Vと一気にブレイクした藤原碧生選手がエース機を獲得すると、前検から評判の好気配。今後、岡山支部だけではなくボートレース界の中心となるであろう実力者が良機を獲得したことで、エンジン出しの時点からかなりハイレベルな争いが繰り広げられました。その基準を上から引き上げたのが藤原選手なら、下から押し上げたのは原田才一郎選手。「記念戦線で戦う将来のために」と伸びを重視した調整をずっと続けていて、その成果は明らかに出ています。芦屋でも早々に伸びだけなら節一級に仕上げてきました。そこで多く聞かれたのが「原田選手に教えてもらって良くなりました」というような



原田才一郎

コメント。伸び重視のため操縦性の面で苦しみことになる選手も同様に多かったのですが、明らかにパワーアップしていました。

同期の絆と相乗効果

原田選手と同期の中亮太選手も助言を受けた一人なのですが、原田選手がパワーで勝負するなら中選手はターンで勝負する選手。最低限の伸びは付けながらも自身の持ち味であるターン力を生かせる仕上がりへとかじを切ると、これが奏功。中選手が1位で原田選手が2位で予選を終了。準優では中選手は1着でしたが、原田選手は2着での優出。お互いに「あいつには優勝させません」とバチバチな関係なのですから、4号艇になった原田選手は伸びに振り切った調整を明言。1号艇の中選手だけでなく他4選手も意識せざるを得



木場悠介

ない状況に。原田選手のマーク位置となる5号艇が総合的に見れば節一パワーを誇る藤原選手だったこともあり、これが優勝戦を面白くしました。結果としては逃げた中選手に原田選手が続いてこの両者のワンツーと順当に収まりましたが、推理もレースも楽しませてもらいました。タイプは違えど同期同県でライバル心もバチバチの両選手。このまま切磋琢磨してSGやGIでも激戦を繰り広げてもらいたいです。

S展示なしの是非と売り上げ

11月末と12月には大村ボートのミッドナイトレースで「全レースS展示なし」という試みが行われました。ただただ8月に行われた大村前回のミッドナイトレースとの比較ですが、予選道中の売り上げは「全レースS展示なし」が勝りました。ただ12月に行われた2

節目の売り上げは下降。11月はS展示なしだけでなくオール進入固定でもあったので、その辺りの影響もあつたのかもしれませんが。個人的には「どうせS展示なしならコース争いも激しくなる方が面白い」と思っているのですが、どうでしょう？ ただ、S展示をなくした理由として「遅い時間により多くのレースをお楽しみいただくため」とあるように、ミッドナイトレースは発売時間⇨推理時間が短いです。考えをまとめ切れずに舟券購入を控える人もいたのかもしれないですね。

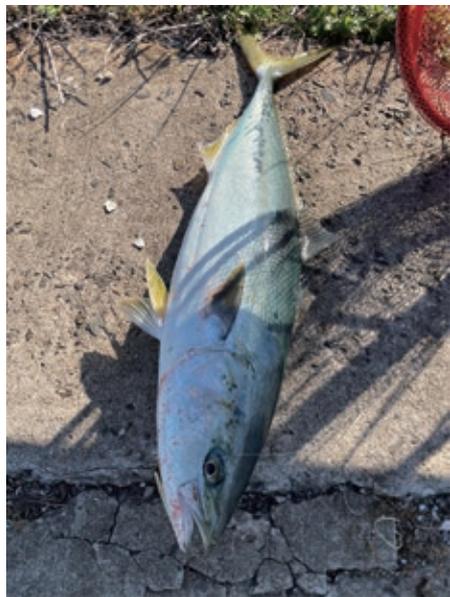
選手としてはどうだったのか。

木場悠介選手が直後に芦屋を走ったので尋ねてみたところ「やっぱりSは難しかったですね。優勝戦ももつと行きたかったです。行けませんでした」という答えが返ってきました。初日メインの発祥地選抜1号艇に抜きされていた岡村仁選手をはじめ、節間に5人もF、12月にも2人がFをしてしまいました。S特訓で勘をつかむ作業はやっていてもS展示を最後の確認の場としている選手は少なくないようで、そうなると困惑するのも仕方なしと言えるのかもしれませんが。でも、S勘を早くつかむのも能力のひとつですから、これから開催数が増えていけば「S展示なしのS巧者」が現れるかもしれません。選手もファンも慣れてくれば、また違った魅力が発見できるかもしれませんね。

釣り人の性と支援と

連載開始時から使用している題目の写真でお分かりでしょうが、私の趣味は釣り。今年は「北九州でブリがたくさん上がっている」という情報が耳に入りマクルールの原稿を後回しにしてまで1本上げできました(笑)。私のような面倒くさがりで気まぐれな釣り人にとって、車をすぐ近くに止められる場所です。

同じく釣りが趣味の池田浩美選手とは合う度に釣りの話もさせてもらったのですが、今年



池田浩美



北陸へ行ってきたそうです。池田選手は「震災のこともあるし、どうしようかと思っただけですけど」と言っていました。個人的には迷惑をかけるようなことがなければ被災地でもどんな行くべきだと思っています。もちろん安全が第一ですが、今回の釣果はしぶかったのですが、釣れているとなれば私のようにうずうずしてしまふのが釣り人(笑)。釣りでなくても現地に行つてホテルやSPA、コンビニでも利用して被災地の経済が少しでも回るようなら悪いことではないはず。ポイントレースの売り上げの多くも災害支援に充てられています。マクルール読者の方はポイントレースが趣味でしょうか、舟券購入が支援につながるのですね。(無理のない範囲で) 大手を振つてポイントレースを楽しみましょう！